

## 0・1 紅海、中東等における危機対応

2023年10月7日にパレスチナ武装勢力ハマスがイスラエル人を殺害、拉致するなどしたが、これにイスラエルが反撃し、イスラエル-ハマスの衝突が激化した。

イエメンの武装組織ホーシー(フーシ)派は、イスラエルがガザ地区への攻撃を停止するまでイスラエル関係船を攻撃すると発表し、紅海を航行中の自動車運搬船を乗っ取った。その後、紅海南部付近を航行中の船舶に対してはミサイルやドローンによる攻撃を繰り返し、乗組員には死傷者が、船舶は沈没、火災などが発生し、航行安全が阻害され続けてきた。

当協会は、海事局からの注意喚起の要請を踏まえるなどし、会員に対し、航行安全の徹底を求め、また、適宜情報の共有をはかってきた。

ホーシー派は2023年11月19日、日本関係の自動車運搬船 GALAXY LEADER を乗っ取った。(なお、全乗組員は1年以上の拘束を経て、2025年1月22日に解放された)

その後、ホーシー派は紅海・アデン湾周辺を航行する船舶に対し、ミサイルや空中・水上ドローンによる攻撃を繰り返し、被弾した船舶は火災や沈没するなどの事態が生じた。加えて、乗組員に死傷者も発生した。

ホーシー派による攻撃は100回を超え、付近の海面での爆発もあったが、多数の船舶が被害を受けており、海域の航行安全と海洋環境が脅かされて続けている。

紅海周辺海域のホーシー派の商船攻撃が激化したことを受け、2024年1月には米英軍がホーシー派拠点への空爆を実施したが、ホーシー派は米英関係船にも攻撃の対象を拡大する旨の声明を発表し、米国籍船舶が狙われるなどした。

国際海運は、順次紅海の航行を停止し、喜望峰へ迂回するようになり、2024年にはスエズ運河通航船舶隻数が例年の半数程度にまで低下した。

2025年10月8日にイスラエルとハマスのガザ地区における停戦が合意された後、双方の攻撃は続くが、ホーシー派による商船への攻撃は発生していない。一部の外国船社は12月頃から紅海の航行を試験的に行っていたが2026年2月28日に米・イスラエルとイランの軍事衝突が発生すると、ホーシー派が反応することが危惧され、再び、紅海航行船舶数の増加が抑制的になっている。

ホーシー派の攻撃に対しては、次の様な動きが認められた。

2023年12月18日、米、英、仏、蘭、伊等10か国の有志連合軍は Operation Prosperity Guardian(繁栄の守護者作戦)を発動し、航行船舶の保護を開始した。

12月19日、保険に関しては Joint War Committee が紅海における危険水域の北限を北緯15度から北緯18度まで範囲を拡大した。

12月22日、国際労使協議(International Bargaining Forum:IBF)がバブエルマンデブ海峡南部をハイリスクエリア(HRA)に指定した。

2024年1月3日、日本を含む米、英など13カ国はホーシー派に対し船舶への攻撃の即時停止を求める声明を発表した。

1月10日、国際連合安全保障理事会は、ホーシー派を非難し、**Galaxy Leader** と乗組員の解放を求める決議を採択した。

1月11日、米英軍は **Operation Poseidon Archer** (ポセイドンの射手作戦) を発動し、イエメンにあるホーシー派の拠点への攻撃を開始した。

※ホーシー派はこれに対して、船舶への攻撃は米国、英国関係船も含むことを表明した。

2月16日、IBF は HRA を拡大することを決定した。

2月19日、EU は **Operation ASPIDES** (盾作戦) を発動し、海域を航行する船舶の保護を開始した。

当協会を含む ICS 等の 30 もの国際海事団体は **Galaxy Leader** の乗組員の早期解放を訴えてきたが、2025年1月22日に乗組員全員が解放され、当協会は無事の生還を歓迎する声明を発表した。

8月6日、ホーシー派の組織、イスラエルに対して課している海上封鎖に違反した企業64社に対し制裁を課す旨のメールで通知した。

10月8日、イスラエルとハマスのガザ地区における停戦が合意された。以後、双方の攻撃は完全には停止していないが、ホーシー派による商船への攻撃は発生していない。当協会はホーシー派の行動を含め、紅海航行に関する動きについて注視している。